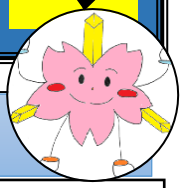
５年生で歯科保健教室
～　歯科衛生士さんにご指導いただきました　～

前途洋々

１１月１３日（金）の２時間目から４時間目まで、５年生が１学級ずつ歯肉炎を予防する歯磨きの方法等について指導をいただきました。これは、宇土市内のすべての５年生と中学１年生が指導を受けるものです。本校の虫歯の治療率は、年々少しずつ上昇しているそうです。（いいですね！）一生自分の歯を大切にしていくためには、しっかり歯の汚れを落とせるような正しいブラッシングが必要ですが、染め出しをしてみると、朝歯磨きをしてきた人でも、結構真っ赤になっている様子が・・・。染め出しのあとは、歯科衛生士さんから、丁寧な磨き方について指導を受けました。時間を計るため数をカウントしたり、歯ブラシの正しいあて方を教えていただいたりしました。ある程度時間をかけて磨くことが大切ですね！これから実践してみましょう。（**写真：鏡を見ながら丁寧にブラッシングしています！**）





宇土市学校人権教育研究会公開授業を実施しました

１１月１１日（水）の５時間目、４年１組で人権学習の公開授業を行いました。「お父さんの思いや願いを受けて（きずな）」という題材を扱い、学習を進めました。ここでは、「部落差別のおかしさに気づき、差別を許さないという意識を醸成するとともに、自分の身の回りのおかしいことに目を向け、差別をなくす仲間づくりを進めること」を中心に考えていきました。**差別はする側の問題であり、される側の問題ではありません。**その視点を土台としながら、担任は授業づくりを進めてきました。また、社会においては、部落差別の解消は、私たち一人一人が責任を負うべきものです。そのためにも、身近な問題（いじめや私たちの意識に潜む差別意識など）にしっかり向き合うことが必要です。

公開授業では、題材にある部落差別と自分たちの生活を重ね、普段の生活の中に見られるおかしさについて、本音で出し合っていきました。子供たちは、「人によって態度を変えることのおかしさ」「周囲がそう言っているからということだけで、本当ではないことを信じてしまう」等について、意見をたくさん述べてくれました。その姿を大変頼もしく思いました。ここで、ドキリとさせられたのは、「大人が言っていることは（間違っていたとしても）、そうなのかなと思ってしまう」という発言でした。子供たちは大人の言動の影響を受けます。襟を正したいと思った場面でした。また、一人一人が反差別の仲間としてつながっていくために必要な「本音を出し合う姿」を多く見せてくれました。

公開授業には、宇土市内の各小・中学校から多くの先生方が参加してくださいました。授業後の研究会では、子供たちが堂々と意見を述べていく姿に感銘を受けたという感想を多くいただきました。人権教育は、授業の中だけでなく、家庭、学校、日常を通したすべての生活場面の中で行われるべきものです。私たち大人も自分自身を見つめ直し、「偏見」「差別」を許さない社会づくりを子供たちとともに行っていきたいと思います。





